

平成26年度位相差 / 偏光顕微鏡法及び位相差 / 蛍光顕微鏡法による

分析データの収集結果

1. 計数者ランク（日本作業環境測定協会の石綿分析技術評価事業における空気中の石綿計数分析に関するクロスチェックのランク）
 - ・位相差/偏光顕微鏡法計数者

A 機関	A ランク	、	B 機関	A ランク	、	C 機関	A ランク
------	-------	---	------	-------	---	------	-------
 - ・位相差/蛍光顕微鏡法計数者(予定)

A 機関	A ランク	、	B 機関	A ランク	、	C 機関	ランクなし(熟練者)
------	-------	---	------	-------	---	------	------------

2. 試験方法 実施計画書は参考資料 1 参照
 - ・各方法について 3 試料を準備し、3 機関が同一のスライドで、同一の視野を計測する。
 - ・計数者にはあらかじめ解体現場で使用されている石綿に関する情報を伝える。
 - ・リロケータブルカバーガラスの 1 視野は、アイピースグレイティクルの直径 300 μm の円になる。
 - ・位相差/偏光顕微鏡では、倍率を 400 倍とし、リロケータブルカバーガラスの 50 個の視野の内、30 視野を計測する。
 - ・位相差/蛍光顕微鏡では、倍率を 400 倍とし、リロケータブルカバーガラスの 50 個の視野の内、30 視野もしくは、観察可能な全ての視野について計測する。
 - ・繊維の計数は、アスベストモニタリングマニュアル（第 4.0 版）による位相差顕微鏡法のルールに従う。

3. データ収集状況
 - ・現在のところ、実施予定の 3 試料のうち 1 試料目の位相差/偏光顕微鏡法のみデータ収集した。
 - ・3 機関の結果を比べると、総繊維数濃度やアスベスト繊維割合は同程度の値である。
 - ・アスベスト繊維割合は 3 機関とも過去に実施した「環境省調査」の電子顕微鏡法の値と同程度である。